

## 15.05.30 陣馬山新歓山行報告書

M3 堀江 栄之

### ①参加メンバー

M3 堀江・水島 C2 林 C1 的場 東京女子医大1年 平田（計5名）

### ②コースタイム

9:05 高尾駅～9:18 藤野駅 9:30～10:10 陣馬登山口～10:30 栃谷～12:00 陣馬山 13:00～13:40 明王峠  
13:45～14:00 大平小屋～15:05 相模湖駅（解散）

### ③本文

本来ならば先週の日曜に行く予定の第二回新歓山行だったが、天気予報のせいで（先週の日曜の天気は、予報は雨だったが実際は晴れだった……）今日に延期となった。こういう場合は延期した日に雨が降るのが相場だが、日頃の行いが良かったためか快晴の天気に恵まれた。

C2 林「今日は道が複雑で迷いそうですね」

私「えっ、そうなの？ 本当だ！」

山行計画を立てた者とは思えない発言である。ひとつ言い訳をさせてもらえるならば、この一週間で今後開催される甲武信ヶ岳山行、塔ノ岳涸沢準備山行、木曽駒ヶ岳山行の計画書を書いたので、陣馬山の山行計画を立てたときの記憶が曖昧になってしまっていた。地図をよくよく見ると分岐点が非常に多く赤線が迷路のように入り組んでいる。1000メートル以下の低山だと思ってなめてかかると遭難するかもしれない。遅ればせながら出発前に気を引き締めた。

登山口までの道のりでM3水島が蛇を発見する。ここで「危ない！近寄るな！」ではなく「写真取らなきゃ！」といって蛇に近づくのが正しい反応にちがいない。慌てて取ったので指が少し映っているのが残念である。ネットで調べたところ、青大将と判定。毒蛇でなくて良かった。熊と出会った時は同じリアクションを取らないよう注意したい。



カメラから逃げるように橋の下に潜る蛇



コンクリ道が終わらない……

登山口を少し登ると一ノ尾尾根と栃谷尾根の分岐点が現れる。前を進む大グループは一ノ尾尾根を選択したが、私たちは計画書通り栃谷尾根コースへ進む。理由は簡単。こちらの方が頂上までのコースタイムが20分短い。その考えが間違えだと気づくには時間がかからなかった。登れど登れどコンクリ道が終わらない。陽の光を遮る木立もなく、アスファルトが日差しを照り返すので、上下両面から焼かれながらひたすら味気ない坂道を登り続けた。私たちの前にも後ろにも登山客の姿はない。きっと皆一ノ尾尾根ルートを選んだのだろう。もう少し下調べをしっかりとしておくのだったと後悔した。

道がコンクリートから土に変わるころには11時近くになっていた。ようやく山行らしくなってきた一安心。新入生諸君、存分に山行を楽しんでくれたまえ。

その後は休憩を挟みつつ、無事山頂に到着。陣馬山名物の奇妙なオブジェが私たちを迎えてくれた。馬のオブジェらしいが、見方を変えたらどうみてもこれ……。いや止めておこう。山頂は開けていて大勢の登山客で賑わっていた。逆に開けすぎていて日影で休める場所が茶屋のテーブルくらいしかなく、集合写真を取りおえると茶屋へ直行。ここでルート選択の下手際を取り繕うべく、M3水島と共に下級生にアイスとジュースを奢る。きっとこれでミスは帳消しだろう。お金の力って素晴らしい。

茶屋では紅一点、東京女子医大の平田さんを中心に話に花を咲かせた。女子医大では山頂では色々と料理をするらしい。むしろ料理がメインで山行はおまけに近いようだ。鉄門山岳部での山頂料理と言ったらOB山行の豚汁くらいなもの。これではいけないと思い、次の甲武信ヶ岳山行では料理にも力を入れようと心に決めた。マシュマロ焼くぞー。

下山中は特にこれといったものはなかった。あえて言えば帰りはメジャールートに戻ったので、他の登山客とすれ違う機会がぐっと増えたことか。

新入生も初参加の部員も楽しんでくれたようで何よりの新歓山行となった。めでたし、めでたし。



奇妙なオブジェの前にて



別の場所での集合写真